



# 高津・大山街道探究講座

川崎市大山街道ふるさと館では、大山街道や高津地域の歴史や文化について、より深く学ぶことのできる「高津・大山街道探究講座」を開催します。開催日は、令和6年12月7日(土)、12月21日(土)、令和7年1月18日(土) の3回、各専門分野の講師をお招きし、ご講演いただきます。各回参加費700円

会場:当館2階イベントホール 定員:各回45名 お申し込みは、11月7日(木)9時30分から大山街道ふるさと館ホームページのメールフォームまたは電話でお申し込みください。先着順で受付いたします。

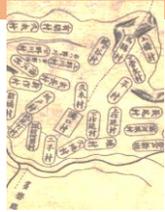
12/7 (土) 10時~12時

## 「二百年前の溝口周辺

— 『新編武蔵国風土記稿』 から考える —

講師：小室 正紀氏 (慶応義塾大学名誉教授)

徳川幕府は、1810年から20年間をかけて、武蔵野国の全ての町村の自然、歴史、農地や産物、名所旧跡、旧家や功績者などを詳しく調べ『新編武蔵国風土記稿』という本にまとめました。そこには溝口周辺の村々のことも、漏れなく書かれています。この風土記をもとに二百年前の溝口周辺がどのような所であったかを考えてみます。「明治17年版『新編武蔵国風土記稿』表紙と元禄年間の二子村・溝口村付近地図」▶



12/21 (土) 10時~12時

## 「高津で養豚は普及したか？

— 明治初期における協救社の養豚事業と高津区域 —

講師：菊地 悠介氏 (川崎市市民ミュージアム学芸員)

一橋家家臣の角田米三郎は、明治2年に京都で養豚牧畜の全国普及を目指した協救社を設立します。高津区域にも養豚を普及しようとしていたことが見受けられる資料がいくつか残っています。本講座では、高津の村々が協救社の進出に対してどのように対応したのか、養豚は高津区域に根付いたのかなどの点について、江戸時代の牧畜経営なども交えながらお話しします。

「養豚法」 (「独逸農事図解 (ファン・カステール訳; 平野栄, 鳴門義民校)」農場博物館コレクション、農場博物館所蔵) ▶



1/18 (土) 10時~12時

## 「大山の歴史と大山道

— 伊勢原市所蔵の浮世絵などをご紹介しながら —

講師：諏訪間 伸氏 (伊勢原市教育委員会教育総務課文化財係専門員)

伊勢原市の大山は、江戸時代に大山詣りでにぎわう日本を代表する名所でした。伊勢原には数多くの大山道が集まり、様々な文化財が残されています。この講座では、伊勢原市が所蔵する浮世絵などをご紹介しながら、大山の歴史と大山道についてお話しします。

五雲亭貞秀  
「大山良弁図」▶  
元治元年(1864)  
(伊勢原市教育委員会所蔵)



- ▶ JR南武線武蔵溝ノ口駅下車徒歩7分
- ▶ 東急田園都市線高津駅下車徒歩5分
- ▶ 東急バス 溝ノ口北口バスターミナル5番のりばから乗車2つめ「高津」下車徒歩1分

主催 川崎市大山街道ふるさと館  
〒213-0001 川崎市高津区溝口3-13-3  
電話 044-813-4705



ホームページ